

第26号

平成25年3月 日発行
編集局 J A山口中央会



集落営農法人だより

平成24年度第6回検討部会 開催 「メディア等を活用した情報発信とその効果」

2月27日、山口市のセントコア山口で「平成24年度第6回検討部会」を開催しました。29法人41人・関係機関30人の計71人が参加し、「メディア等を活用した情報発信とその効果」というテーマのもと、講演や実践報告、検討・協議を通じて、情報収集・発信の必要性やその方法について学びました。



第6回検討部会の様子

<<研修内容>>

【オリエンテーション】これまでの検討会と本日の検討ポイントについて

発表者：J A山口中央会 農業振興部 吉武 悟志（当協議会事務局）

【講演】情報発信の必要性とその効果

～農業現場におけるITツールや複数メディアを活用した情報発信・収集～

講師：やまぐち総合研究所有限会社 取締役 中村 伸一 氏

【実践報告1】小さな醤油蔵のFacebook活用法

報告者：桑田醤油有限会社 代表取締役 桑田 浩志 氏

【実践報告2】メディアが取り上げる情報の価値とメディアへのPR方法

報告者：フリーリポーター 津山 奈穂子 氏

【検討・協議】法人の魅力はどう伝えていくか

司会：J A山口中央会 農業振興部 吉武 悟志（当協議会事務局）

○ 【オリエンテーション】これまでの検討会と本日の検討ポイントについて

発表者：JA山口中央会 農業振興部 吉武 悟志（当協議会事務局）

本年度は、基盤づくり～意識改革～商品化～メディア戦略の流れを踏まえ、以下のとおり計6回の検討部会を開催しました。

- 第1回「集落営農法人コンサルテーションを通じた新たな事業展開」（7月10日）
- 第2回「新たな人材を受け入れる仕組みづくりと能力を活かす場面と役割」（8月10日）
- 第3回「JGAPの有用性と消費者目線のとらえ方とものづくり」（8月23日）
- 第4回「若手就農希望者にとって魅力的な集落家農法人とするためには」（11月8日）
- 第5回「地域資源を活用した商品化へのプラン作り」（12月17日）

第6回目となる今回は、情報がテーマです。「**集落営農法人だから伝えられる思いや価値**」「**近すぎて気づかない農村・農業の魅力**」「**情報発信の必要性～誰に何を伝え、共感してもらいたいのか～**」といった内容を参加者の方々と検討・協議していき、来年度の山口県集落営農法人連携協議会の活動にも反映させていきます。



説明する吉武事務局員

○ 【講演】情報発信の必要性とその効果

～農業現場におけるITツールや複数メディアを活用した情報発信・収集～

講師：やまぐち総合研究所有限会社 取締役 中村 伸一 氏

- ・ 多くの人々は、新商品を開発した後のPR方法や売り方について考えていません。ブランド品は、消費者に認められることでブランド品となるため、PR方法や売り方はしっかり考える必要があります。
- ・ **真面目な情報**による商品のPR、**面白い情報**によるファンの獲得というように、発信する情報は**2つの要素をミックス**することが効果的です。
- ・ **ヒストリー・ドラマ・ストーリー**を見せる・PRすることで、**消費者の共感・感動**を引き起こし、ファンを作っていくことができます。
- ・ **マスメディア**（テレビ・ラジオ等）・**ソーシャルメディア**（HP・Facebook等）・**リアルメディア**（POP・チラシ等）をそれぞれうまく活用（**クロスメディア**）していかなければなりません。
- ・ **アイデア・人脈・企業文化などの目に見えない無形資産（知的資産）**は、企業競争力の源泉であり、蓄積し、公開していくことが、ビジネスの成長に繋がっていきます。



講演する中村取締役

○【実践報告1】小さな醤油蔵のFacebook活用法

～だれに、どんな思いを伝えたいのか～

報告者：桑田醤油有限会社 代表取締役 桑田 浩志 氏

- ・ **何を伝えたいのか、何を伝えるべきなのか、何を實現したいのか、誰に伝えたいのか**等について考えることが、**情報発信のスタートライン**に立つことです。私の場合、「山口県に縁のある皆さまに愛される醤油蔵でありたい」「真っ直ぐ正直な醤油造りを知ってもらいたい」という思いをスタートラインから持ち続けています。
- ・ **F a c e b o o k**は、無料で情報を多くの人々に伝えられるソーシャルメディアです。私は、長いドキュメンタリー番組を作るイメージで、1日約1回継続して情報発信をしています。
- ・ **消費者が知りたいのは作り手の姿**だと思います。私は**F a c e b o o k**を通じて、仕事2割、家族のこと8割で情報を発信しています。このような情報発信のバランスをとり、情報の受け手に飽きさせずに、魅力をPRすることができます。
- ・ 醤油蔵に関わることを様々な角度・側面で紹介しています。醸造法や原材料、添加物など**隠さずに真っ直ぐ正直に情報を提供**しています。

※ なお報告前には、原料を提供される集落営農法人など農家の方へ深く感謝の意を込めて御礼を述べられました。



報告する桑田代表取締役

○【実践報告2】メディアが取り上げる情報の価値とメディアへのPR方法

報告者：フリーリポーター 津山 奈穂子 氏

- ・ お金をかけずにメディアに露出するには、**プレスリリース（情報提供）**が有効的です。プレスリリースは、県政記者クラブ・市役所記者や各マスコミに配布する方法や、直接取り上げてほしいメディアに出向く方法等があります。その際に、**5W1H（誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どのように行うのか）**をしっかりと示し、**新しい情報**であること、**問合わせ先**を書くこと、**事前の告知**なのか**当日取材**してほしいのかを示すことが必要です。
- ・ メディアを惹きつけるには、**顔（思い）**を見せることが重要です。メディアは**安全・安心や地産地消、環境、旬、伝統、健康等のキーワード**に惹きつけられます。地域の人には当たり前のことであっても、地域外の人には初めて知ることになる**情報は価値**があります。自らの**価値を見極め、自らが動き、情報を発信**することが大事です。躊躇せず、積極的に情報発信して下さい。

※ 「はなっこりーの歌」を作詞された津山さんに、当日、歌も歌っていただきました。



はなっこりんと津山リポーター

○ 【検討・協議】 法人の魅力はどう伝えていくか

J A山口中央会 農業振興部 吉武 悟志（当協議会事務局）がコーディネータを務め、各講師・報告者とともに参加者全員で、法人の魅力の伝え方について検討・協議しました。

参加者からは、「若者に農業のカッコよさを伝えていきたい。」「現状を嘆くだけでなく、そこからどのように脱却し発展していくのか、そのプロセスをPRすべきだ。」「消費者にわかりやすい言葉を使おう。」「山口県の集落営農法人が一体となったPRも必要だ。」等の様々な意見が寄せられ、検討・協議は大変盛り上がりました。



検討・協議の様子

当日実施した「ふりかえりシート（アンケート）」には、このような言葉も記載されていました。（以下要旨）

- ・ 各講師が話された思いを伝えることの重要性に今まで気がつかなかった。
- ・ 農家は汗を流し頑張っているが、町にいる消費者にはその姿は見えていない。
- ・ 私たちは、様々なメディアを活用して情報発信し、農業の裏にあるドラマを見せることで、自分達の思いを多くの人に伝えていかなければならない。

平成 24 年度山口県集落営農法人連携協議会視察研修 ～次世代の後継者確保・育成を目指して～

3月6～7日、島根県出雲市で視察研修を実施しました。15法人17人・関係機関11人の計28人が参加し、「次世代の後継者確保・育成を目指して」というテーマのもと、多様な人材を活かした法人経営の仕組みを学びました。

○ 【6日】（農）あかつきファーム今在家の視察（島根県出雲市斐川町）

（農）あかつきファーム今在家では、人材育成に係る様々な工夫（自治会選考による役員交代制度、オペレーターの70歳定年制度、若手専従者の雇用、人材バンクによる労働補完等）を学びました。また、観光農園によるファンづくりや、イベント・組合員だより等を通じた村づくりについても話を伺い、意見を交換しました。



視察研修の様子

○ 【7日】（有）グリーンワークの視察（島根県出雲市佐田町）

（有）グリーンワークでは、様々な農外事業（高齢者外出支援サービス、高齢者配食サービス、JAライス・育苗センターの作業受託、羊の放牧・羊毛加工等）による年間雇用体制の確立について学びました。同法人は、現在これらの方法により、7人もの常時雇用を実現しています。



視察研修の様子



全員で記念撮影

その他

○ 日本農業新聞掲載記事の紹介

3月1日以降日本農業新聞に掲載された山口県の集落営農法人に関する5つの記事をご紹介します。

【お知らせ】

今年度の集落営農法人だよりは、今号（第 26 号）が最後の号となります。来年度も継続して発行して参りますので、今後ともよろしくお願ひいたします。活動につきましても、是非、積極的にご参加ください！！

～山口県集落営農法人連携協議会事務局一同～